

(1) Visual Nexus Meeting Server ver3.2-2(SP1) 使用ポート

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的	F/Wへの許可
TCP	8000	VN APIの提供するtelnet I/Fサービス	内部使用
TCP	8001	MCU←API Server	内部使用
TCP	8002	GK←API Server	内部使用
TCP	8003	LS←API Server	内部使用
TCP	8004	VNBMS	内部使用
TCP	8005	VNPMS	内部使用
TCP	8006	WebDav	内部使用
TCP	8080	Web Service(http/XML)	オープン
TCP	1722	VN License Service	内部使用
UDP	1719	H.225.0 RAS制御	オープン
TCP	1720	H.225.0 呼制御	内部使用
TCP	49152-54999 *1	H.245 チャネル制御	オープン
UDP	49152-54999 *2	H.323音声/映像データ、データ制御(RTP/RTCP)	オープン
TCP	8079	アプリケーション共有	オープン
TCP	1811	H.225.0 呼制御 (Q.931) GK Routed Mode	オープン
TCP	55000-59999 *3	H.225.0 呼制御 (Q.931) MCU発呼時などのソースポート	オープン
TCP	8081 *4	Visual Nexusプレゼンス機能	オープン
TCP	8082	Visual Nexusプレゼンス機能(Buddy Manager)	内部使用

*1 サーバの設定で変更可能です。(/usr/local/vn/etc/vnconfig_mcu.valのportFrom=とportTo=を変更することで、任意に変更可能。接続端末台数の2倍のポート数が必要です。)

*2 サーバの設定で変更可能です。(/usr/local/vn/etc/vn.confのclotho.mcu.rtp.port.start=とclotho.mcu.rtp.port.last=を変更することで、任意に変更可能。VNMM一つについて最大23個必要となります。接続台数分を掛けた値が最低限必要なポート数です。)

*3 サーバの設定で変更可能です。(/usr/local/vn/etc/vnconfig_gk.val の portFrom=55000 と portTo=59999 の値を変更することで、任意に変更可能。同時に確立される呼の数だけ必要です。P2P接続も含まれます。)

*4 v3.2では、プレゼンス機能で使用するポートは8081固定に変更されました。[サーバ情報]で、“clotho.pm.max.servers”と“clotho.pm.max.clients”はデフォルトで“ON”です。

* ポートの範囲指定を変更する場合は、余裕をもって指定してください。範囲内ですでに他のアプリケーションで使用されていると割り当てができなくなる可能性があります。

(2) Visual Nexus Meeting Server ver3.2-2(SP1) カスケード構成時のマスターサーバの使用ポート

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的	F/Wへの許可
TCP	8000	VN APIの提供するtelnet I/Fサービス	内部使用
TCP	8001	MCU←API Server	内部使用
TCP	8002	GK←API Server	内部使用
TCP	8003	LS←API Server	内部使用
TCP	8004	VNBMS	内部使用
TCP	8005	VNPMS	内部使用
TCP	8006	WebDav	内部使用
TCP	8080	Web Service(http/XML)	オープン
TCP	5432	データベース(スレーブサーバ → マスターサーバ)	オープン
TCP	1722	ライセンスサービス(スレーブサーバ → マスターサーバ)	オープン
UDP	1719	H.225.0 RAS制御	オープン
TCP	1720	H.225.0 呼制御	内部使用
TCP	49152-54999 *5	H.245 チャネル制御	オープン
UDP	49152-54999 *6	H.323音声/映像データ、データ制御(RTP/RTCP)	オープン
TCP	8079	アプリケーション共有	オープン
TCP	1811	H.225.0 呼制御 (Q.931) GK Routed Mode	オープン
TCP	55000-59999 *7	H.225.0 呼制御 (Q.931) MCU発呼時などのソースポート	オープン
TCP	8081 *8	Visual Nexusプレゼンス機能	オープン
TCP	8082	Visual Nexus Buddy Manager	内部使用

*5 サーバの設定で変更可能です。(usr/local/vn/etc/vnconfig_mcu.valのportFrom=とportTo=を変更することで、任意に変更可能。接続端末台数+ミーティング数の2倍のポート数が必要です。)

*6 サーバの設定で変更可能です。(usr/local/vn/etc/vn.confのclotho.mcu.rtp.port.start=とclotho.mcu.rtp.port.last=を変更することで、任意に変更可能。VNMM一つについて最大23個必要となります。カスケード構成では((ミーティング数x2)+1)をプラスする必要があります。)

*7 サーバの設定で変更可能です。(usr/local/vn/etc/vnconfig_gk.val の portFrom=55000 と portTo=59999 の値を変更することで、任意に変更可能。同時に確立される呼の数だけ必要です。P2P接続も含まれます。)

*8 v3.2では、プレゼンス機能で使用するポートは8081固定に変更されました。[サーバ情報]で、“clotho.pm.max.servers”と“clotho.pm.max.clients”はデフォルトで“ON”です。

注) Visual Nexus Secure Transportとの組み合わせでカスケードを構成される場合は、スレーブサーバからマスターサーバに対して、データベース(5432)、ライセンスサービス(1722)を開ける必要があります。また、Visual Nexus Endpointからマスターサーバに対して、アプリケーション共有(8079)、Webサービス(8080)を開ける必要があります。また、プレゼンス機能で使用するポートは8081固定にです。

* ポートの範囲指定を変更する場合は、余裕をもって指定してください。範囲内ですでに他のアプリケーションで使用されていると割り当てができなくなる可能性があります。

**(3) Visual Nexus Meeting Server ver3.2-2(SP1) カスケード構成時のスレーブサーバの使用ポート
スレーブサーバ**

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的	F/Wへの許可
TCP	1720	H.225.0 呼制御	オープン
TCP	49152-54999 *9	H.245 チャネル制御	オープン
UDP	49152-54999 *10	H.323音声/映像データ、データ制御(RTP/RTCP)	オープン
TCP	8079	アプリケーション共有	オープン
TCP	8001	カスケード	オープン

*9 サーバの設定で変更可能です。(/usr/local/vn/etc/vnconfig_mcu.valのportFrom=とportTo=を変更することで、任意に変更可能。接続端末台数+ミーティング数の2倍のポート数が必要です。)

*10 サーバの設定で変更可能です。(/usr/local/vn/etc/vn.confのclotho.mcu.rtp.port.start=とclotho.mcu.rtp.port.last=を変更することで、任意に変更可能。VNMM一つについて最大23個必要となります。カスケード構成では((ミーティング数x2)+1)をプラスする必要があります。)

(4) Visual Nexus Endpoint ver3.2-2(SP1) 使用ポート *11

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的	F/Wへの許可
UDP	1719	H.225.0 RAS制御	オープン
TCP	1720	H.225.0 呼制御(Q.931)	オープン
TCP	0-65535 *12	H.245 チャネル制御	オープン
UDP	6000-6020 *13	H.323音声・映像データ、データ制御(RTP/RTCP)	オープン
TCP	8079	アプリケーション共有	オープン

*11 Firewall/NAT 環境で Visual Nexus Endpoint を使用される際は、Visual Nexus Secure Transportを使用してください。その際、サーバ側のVNPpresenceで使用するポートを8081固定に設定する必要があります。[サーバ情報]で、“clotho.pm.max.servers”と“clotho.pm.max.clients”を“ON”に設定してください。

*12 レジストリの設定で範囲指定可能です。必要ポート数は2つです。

[HKEY_CURRENT_USER\Software\France Telecom\Conf\CallController\CallStack\Confv4\H323]

“lowerDynamicallyAllocatedPortNumberLimit”=dword:0 : ポート指定範囲の下限値

“upperDynamicallyAllocatedPortNumberLimit”=dword:0 : ポート指定範囲の上限値

*13 レジストリの設定で変更可能です。

([HKEY_CURRENT_USER\Software\France Telecom\Conf\CallController\CallStack\Conf4]

“baseMediasPortNumber”=dword:6000 : 基点の「6000」を変更することで、任意に変更可能。基点から20個の範囲で使用します。)

* ポートの範囲指定を変更する場合は、余裕をもって指定してください。範囲内ですでに他のアプリケーションで使用されていると割り当てができなくなる可能性があります。

(5) Visual Nexus Secure Transport使用ポート

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的	F/Wへの許可
TCP	8081 ^{*14}	H.323トンネリング(制御、データ) -TCPモード/UDPモード	オープン
UDP	8081-8082 ^{*15}	H.323トンネリング(データ) -UDPモード ^{*16}	オープン
TCP	8080 ^{*17}	Webサービス	オープン

^{*14} 設定で変更可能です。(/usr/local/vn/vnst/horizon.tnl "ControlledPort=8081" を変更)

^{*15} 設定で変更可能です。(/usr/local/vn/vnst/horizon.tnl "UDPFixedPorts=8081-8082" を変更)

^{*16} UDPモードのときに使用します。

^{*17} 設定で変更可能です。(/usr/local/vn/vnst/horizon.web "ListeningPort=XXXX" を追加。XXXXは任意のポート番号)

(6) Visual Nexus Secure Transportを利用する場合

VNSTクライアントからSecure Transportサーバに向かって

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的	F/Wへの許可
TCP	8081	H.323トンネリング(制御、データ) -TCPモード/UDPモード	オープン
UDP	8081-8082	H.323トンネリング(データ) -UDPモード ^{*18}	オープン
TCP	8080	Webサービス	オープン

VNMMからVisual Nexus Meeting Serverに向かって

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的	F/Wへの許可
TCP	8080	Webサービス	オープン
TCP	8081 ^{*19}	Visual Nexusプレゼンス機能	オープン
TCP	8079	Visual Nexusアプリケーション共有機能	オープン

^{*18} UDPモードのときに使用します。

^{*19} v3.2では、プレゼンス機能で使用するポートは8081固定に変更されました。

(7) Visual Nexus Ver3.2 ネットワーク診断ツール

ポートチェック機能 ネットワーク診断クライアントからVisual Nexus Meeting Serverに向かって

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的
TCP	8080	APIサーバ
TCP	8080	ドキュメントサーバ
TCP	8081	プレゼンスサーバ
TCP	8079	アプリケーション共有サーバ

ポートチェック機能 ネットワーク診断クライアントからVisual Nexus Secure Transport サーバに向かって

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的
TCP	8080	H.323トンネリング(制御、データ) -TCPモード/UDPモード
UDP	8081-8082	H.323トンネリング(データ) -UDPモード
TCP	8080	Webサービス

ネットワーク特性計測機能 ネットワーク診断クライアントからネットワーク診断サーバに向かって

TCP/UDP	ポート番号	機能・目的
TCP	8078 ^{*20}	クライアントを待ち受けるポート
UDP	8075-8079 ^{*21}	データ送受信

*20 ネットワーク診断ツール(サーバ)をコマンドベースで実行した場合のデフォルトは、50080 です。

*21 ネットワーク診断ツール(サーバ)をコマンドベースで実行した場合のデフォルトは、51000-55000 です。